

家庭教育

山下俊郎著

家庭教育

山下俊郎著

光生館

家庭教育

著者略歴

昭和3年：東京帝国大学文学部心理学科卒業
愛育研究所教養部長，東京大学講師を経て
現在：東京都立大学教授，東京家政大学教授
文学博士

主な著書：教育的環境学（岩波書店），改訂幼
児心理学（朝倉書店），ひとりっ子の心理と
教育（牧書店），児童心理学（光文社）他



定価 円 1,000.

昭和40年11月15日 初版発行

著者 © 山下 俊郎
(Toshio Yamashita)

発行者 中川 豊三郎

印刷者 斎藤 貞子

発行所 株式会社 光生館

東京都千代田区神田神保町3～19
振替東京 130621 電話 (261) 6555

日月印刷

佐抜製本

まえがき

子どもにとって生活のよりどころであり、成長の場であるところの家庭が、どのように重要な意義を持っているか、はかり知れないものがあるといっている。その家庭を場として営まれる家庭教育は、すべての教育の始まりとして、またすべての教育の集約されるものとして、まことに大きい重要な意義を持っている。この書は、このようなものとしての家庭教育について考え、これをきわめていこうとする書である。

家庭教育の重要性についての認識が、今日ほど高まっている時はないといっているであろう。子どもの教育に関する社会全般の論議がひろげられ、深められるにしたがって、家庭教育の重要性への認識が次第に深まってきたといっている。いまも述べたとおり、すべての教育の始まりであり、またその集約でもあることが、改めて認識されてきたのである。

わたくしは、学校で家庭教育について講義することすでに久しく、その実際の問題について世の親の立場にある方々の相談相手をつとめてきたこともまた久しい。どちらも、心理学者としてのわたく

しの学んできたことの応用であるといっている。もう三五年あまりになろうとしている。このような点についてわたくしの書いたものを、とくに幼児についてまとめて「幼児の家庭教育」として出版したのが、昭和二六年であった。その後、大学で講義した案をさらに検討して、家庭教育について体系的に考察してまとめてみようという願いは、わたくしにとって長い間の願いであった。その願いの実現されたものが、この書である。まだいろいろと考察不十分の点のあることを恐れるが、家庭教育について学ぶ人々の教科書としての手引きの役をつとめることができ、また家庭教育について体系的に考えてみようとする人々への参考として役立ち、さらに、家庭教育の実際問題についての相談相手の役をつとめることができれば幸いである。

実は、かねがねこのような書物をまとめてみたいと考えていたわたくしのところへ、執筆をすすめに光生館主中川豊三郎氏が来られて執筆をお引き受けしたのは、すでに八年も前になる。しかしわたくしの身辺の多忙のために、頭の中であれこれと考えるだけで、一向に執筆にいたらなかった。ようやく最初の部分を書きはじめたのが三年前である。しかも、その後も執筆を中絶している期間の方がながく、ようやく全部を脱稿したのがこの九月始めである。いままで書いた書物の中でこんなに長い年月かかった書物ははじめてであり、しかも実際に書いた期間としてはごく短い時日しかかけていな

い。まことに不手際きわまる書であつた。しかも、この長い八年の間、誠に忍耐強く、終始にこやかにわたくしを鞭撻してくださつたのは、中川氏と光生館編集部の渡辺力君であつた。この両氏の忍耐強いはげましがなければこの書はとくに流産していただであらう。この書がようやく世に出ようとしている現在、わたくしは中川、渡辺の両氏に心から感謝したい思いで一ぱいである。渡辺君にはこのほかにもいろいろ事務的なことでわずらわすことが多かった。また、この書の索引の作製については、中地万里子さんの手をわずらわした。これらの方々に、ここに記して厚く感謝の意をあらわしたいと思う。

一九六五年九月二七日

著 者

い。まことに不手際きわまる書であった。しかも、この長い八年の間、誠に忍耐強く、終始にこやかにわたくしを鞭撻してくださったのは、中川氏と光生館編集部の渡辺力君であった。この両氏の忍耐強いはげましがなければこの書はとくに流産していたであろう。この書がようやく世に出ようとしている現在、わたくしは中川、渡辺の両氏に心から感謝したい思いで一ぱいである。渡辺君にはこのほかにもいろいろ事務的なことでわずらわすことが多かった。また、この書の索引の作製については、中地万里子さんの手をわずらわした。これらの方々に、ここに記して厚く感謝の意をあらわしたいと思う。

一九六五年九月二七日

著 者

目次

序章	一
----	---

I 家庭教育の意義	七
-----------	---

次 一 家庭教育の意義	九
-------------	---

教育の様態(九)——教育の場(一〇)——家庭の意義(一一)——家庭と教育(一二)——家庭教育の発達の意義(二三)

目 二 家庭教育の目標	一五
-------------	----

教育一般の目標と家庭教育の目標(一五)——家庭教育の目標(一六)——児童観の変遷(一六)——現代の児童観(一八)——目標としての人間像△1人間性豊かな人間▽ (二〇)——目標としての人間像△2民主的社會人▽ (二三)

三 家庭教育の特質	二六
-----------	----

生活体としての家庭(二六)——家庭の自然的形成作用(二七)——意図的形成(二八)——家庭教育の二重作用(二九)

四 形成の場としての家庭……………三

生活の場としての家庭(三)——安定感のよりどころとしての家庭(三)——安定感の醸成
される条件(三)——社会生活修練の場としての家庭(三)——民主的社会生活としての家
庭生活(三)——自然的形成の場としての家庭(三)——形成作用の心的機制(三)——同化
と反発(三)——模倣と暗示(三)——形成の機制と家庭の形態(四)

次
Ⅱ 家庭の形成作用……………四

一 形成作用のとりえ方——環境分析……………五

家庭の環境分析(四)——環境分析と家庭教育(四)——家庭の環境病理学的分析(四)——
環境病理学的分析の事例(四)

二 狼に育てられた子ども……………五

——人間的文化的環境の意義——
狼に育てられた子どもの発見(五)——最初の生活状態(五)——人間的素質と狼的環境
(五)——人間への復帰(五)——アマラの場合(五)——人間的文化的環境の意義(五)

三 家なき子の成長発達……………六

○——家庭的環境の意義——

四 母子家庭の子ども……………六九

ホスピタリズムの問題(五八)——ホスピタリズムの事実△1発達の遅れ▽(五九)——ホスピ
タリズムの事実△2発達のゆがみ▽(六一)——ホスピタリズムの条件分析(六三)——母親的
接触の実験研究(六六)——成長の条件としての家庭的環境(六七)

——両親の環境的意義——

母子家庭の問題性(六九)——母子家庭における母親の類型(七〇)——積極型の母親とその子
(七一)——消極型の母親とその子(七三)——母子家庭の特質(七五)——両親の環境的意義(七六)

五 ひとりっ子……………七六

——きょうだいの環境的意義——

ひとりっ子の問題性(七八)——ひとりっ子の特異性の因由(七九)——過教育とその結果(八〇)
——社会生活の欠除とその結果(八三)——きょうだいの環境的意義(八三)

六 家庭の形成作用……………八五

人間的文化的環境(八五)——家庭的環境の基底的要因(八六)——両親の環境的意義(八七)——
きょうだいの環境的意義(八七)——家庭の形成作用(八八)

Ⅲ 家庭教育における意図的形成の原理……………九二

一	子どもの座	九三
	児童観(九三)——安定感(九四)——承認の要求と所屬の要求(九四)——物理的な場(九六)——心理的な座(九七)——子どもの座(一〇〇)	
二	自由としつけ	一〇一
	しつけの意義(一一)——しつけの目標(一一三)——しつけの目標と自由(一一五)——しつけの方法と自由(一二六)——しつけの内容(一二七)——しつけの方法(一二八)——欲求不満としつけ(一二九)——自由としつけ(一二〇)	
三	指導の技術	一二二
	——言語による指導と賞・罰——	
	言語による指導(一二)——指示の明確性と積極性(一二)——賞・罰の意義(一二四)——賞の与え方とほめ方(一二五)——罰の与え方と叱り方(一二七)——体罰の問題(一二〇)——指導の一貫性(一二三)——指導の積極性と消極性(一二三)	
四	発達と個性	一二四
	教育的要求と発達(一二四)——発達の課題(一二七)——発達段階と教育の方法(一二〇)——発達と家庭教育(一二二)——個性(一二三)——出発点としての個性(一二三)——発達するものとしての個性(一二四)——目標としての個性(一二四)——個性と家庭教育(一二五)	

○五 親子関係……………一五

親子関係の要因分析(サイモンズとラドケ)(二二六)——わが国の親子関係の研究(二三九)——
—親子関係についての考え方(二四三)——好ましくない親子関係(二四四)——好ましくない親
子関係の型と子どもの行動傾向(二四四)——望ましい親子関係への調整(二四五)——親子関係
と家庭教育の基本(二四六)

Ⅳ 家庭教育の実際……………一四

次 一 基本的習慣……………一五

目 1 基本的習慣の意義……………一五
社会生活からの要求(二五二)——円満な発達への要求(二五三)——基本的習慣の内容(二五三)

2 習慣形成の方法……………一五

反復(二五四)——型つけ(二五四)——練習(二五五)——気持ち(二五五)——習慣をつける時期(二五六)

3 食事の習慣……………一五

授乳の時間(二五七)——離乳(二五八)——偏食の予防ときょう正(二五九)——食事行動の自立
(二六〇)——間食と食事の規則性(二六一)

4 睡眠の習慣……………一六

寝つき(二六一)——就寝時刻(二六二)——睡眠時間(二六三)——昼寝(二六四)——就寝の準備行動
(二六五)

目次	
5	排便の習慣……………一六五
	おむつの時期(一六五)——大便のしつけ(一六六)——大便の自立(一六七)——小便のしつけ(一六七)
	——小便の自立(一六八)——夜中の排尿(一六八)
6	着衣の習慣……………一六九
	着衣行動自立の経路(一六九)——着衣行動自立の標準(一七〇)——着衣行動の自立と幼児の服飾品(一七一)
7	清潔の習慣……………一七二
	清潔の習慣の出発と発達(一七二)——清潔の習慣の自立の標準(一七三)
8	基本的習慣と人格形成……………一七五
	基本的習慣自立の標準(一七五)——基本的習慣と人格形成(一七五)
二	安全教育……………一七七
	——生命を守るしつけ——
1	子どもの事故死……………一七八
	事故死の比率(一七八)——事故死の種別(一七八)——事故死亡の国際比較(一七九)
2	事故の不慮性と安全教育……………一八〇
	不慮ということ(一八〇)——交通事故による不慮性の分析(一八二)——安全教育の根拠(一八三)
3	安全教育の体制……………一八四
	生命を守ること(一八四)——生命保護の体制(一八六)——安全教育(一八六)

4	安全な環境づくり……………	一七
	水に対する対策(一八八)——交通事故への対策(一九九)——窒息への備え(二二二)——火に対する注意(二二三)——墜落に対する備え(二四四)——毒物などへの注意(二五五)——けがしやすいものへの注意(二五五)	
5	安全教育の基本原則……………	一六
	発達に即する安全教育(一九六)——強制と反復(一九七)——模倣による習得(一九八)——言語理解と実地体験(一九九)	
6	安全教育の基礎工作……………	二〇〇
	運動能力の訓練(二〇二)——注意力の訓練(二〇三)——生活習慣の確立(二〇三)——危険に対する構え(二〇四)	
7	安全教育の具体的内容……………	二〇四
	遊具の注意(二〇五)——道具の使い方(二〇五)——危険な場所への注意(二〇五)——交通訓練(二〇六)——動物に対する注意(二〇七)——誘かいに対する注意(二〇七)	
8	安全教育と地域社会……………	二〇八
三	遊びとおもちゃ……………	二〇九
1	遊びの意義……………	二〇九
	自発的活動としての遊び(二〇九)——機能の快をもたらす活動(二一〇)	
2	子どもの遊びと心身の発達……………	二二
	大人の遊びと子どもの遊び(二二)——発達における自発的使用の原理(二三)——遊びの発	

目次	
3	遊びの発達心理……………二二三
	遊びの分類(二三四)——幼児の遊びとその発達(二三四)——児童期の遊び(二三六)
4	遊びの形成作用……………二二八
	能力の形成(二三八)——社会性の育成(三〇〇)
5	遊びの指導……………二二二
	自発性の尊重(二三三)——遊びの環境(二三三)——遊び場(二三三)——悪い遊びの問題(二三四)
6	おもちゃの選び方・与え方……………二二六
	おもちゃの意義(二三六)——おもちゃの選び方(二三七)——おもちゃの与え方・扱い方(二三九)
四	絵本、読み物およびテレビ……………二二二
1	子どもの絵本……………二二二
	絵本の意義(二三三)——絵本の選び方(二三三)——二—三歳児の絵本(二三四)——三—四歳児の絵本(二三六)——五—六歳児の絵本(二三七)
2	子どもの読書……………二二九
	読書指導の基本的立場(二三九)——読書興味の発達(二四〇)——読み物選択の手がかり(二四二)——読み方の指導(二四三)——読書についての話合い(二四四)——漫画の問題(二四五)
3	テレビと子ども……………二二六
	テレビと子ども(二四七)——テレビの持つ利点(二四七)——テレビのもたらす悪影響(二五〇)——チャンネル選択とテレビっ子(二五三)——非行とテレビ(二五五)——よい番組とわるい番組

(三六)

五 子どもと社会生活……………二五九

1 子どもと友だち……………二五九

友だちづき合いの発生(二五九)——社交性の要求の芽生え(二六〇)——社会生活の発達の意義
(二六一)——集団保育、幼稚園・保育所(二六二)——友人関係の発達(二六四)——徒党時代と徒
党の特質(二六五)——徒党時代の集団生活(二六六)——友人関係の発達(二六六)——心理的離乳
(二六七)——親友(二六八)

次 0 2 子どもと社会……………二六八

子どもと大人との関係の発達の变化(二六九)——反抗期(二七〇)——課題意識とききわけの心
(二七一)——社会的訓練(二七二)——公衆道德のしつけ(二七三)

目 3 親の態度・大人の態度……………二七四

親に対する意識と親の態度(二七四)——孝行ということ(二七五)——社会生活面における親の
問題(二七六)——社会的訓練に対する親の役割(二七七)

六 知的指導と家庭学習……………二七九

1 幼児期における知的指導……………二七九

——知恵ののぼし方の基本——
知恵の見方(二八〇)——知恵ののぼし方の本質(二八一)——幼児の質問(二八二)——遊びへの配
慮(二八四)——調和的な発達(二八六)——社会生活の意義(二八七)——経験のまとめ(二八七)——経

2	家庭における学習の問題 ——勉強について—— 生活のバランス(二九〇)——勉強の意義(二九二)——勉強への導入(二九三)——最初の勉強とその指導(二九三)——勉強の環境(二九四)——親の態度と要求(二九五)——学業成績を規定する要因(二九六)——塾・家庭教師・けいここと(二九八)	二六九
3	知的指導の基本的考え方 知育偏重の弊(二九九)——つめ込み主義の弊(三〇〇)	二九九
七	金銭教育と家事の手伝い	三〇一
1	金銭教育と小づかい 金銭に対する理解の発達(三〇二)——小づかいの与えはじめ(三〇三)——金銭教育としての小づかい(三〇四)——小づかい帳の管理と指導(三〇五)——消費生活の学習(三〇七)——家庭の経済状態に関すること(三〇七)	三〇一
2	家事の手伝い 手伝いの意義(三〇九)——親の態度(三一〇)——手伝いにおける仕事の分担(三一〇)——生活設計の一部としての手伝い(三一三)——分担する仕事の適合性(三一四)——手伝いに対する報酬の問題(三一五)	三〇九
3	金銭教育と手伝いの教育的意義 生活における金銭と手伝い(三一六)——社会的成熟の要因としての意義(三一七)	三一六